

# 救急車の適正利用の促進

～ 市民と観光客のための「くまもと街なか保健室」～

119番通報の中には、ベッドからの転落や明らかな軽症、病院の診療待ち時間を短縮したいといった本来の利用からみると適正でないケースが見受けられる。しかしながら、依頼主の希望があれば救急車を出場せざるを得ないのが現状である。不適正な救急車の利用は救急車出動件数を引き上げ、将来的に救急医療の圧迫に繋がる懸念がある。そこで、私たちは「くまもと街なか保健室」を設置し、救急車の適正利用の促進に結びつけることを提案する。

## 平成26年の状況（熊本市）

出動件数 **33,854**件（前年比+2477）

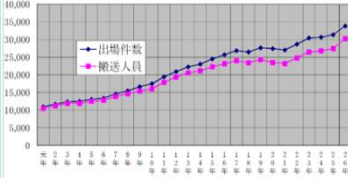
搬送件数 **30,272**人（前年比+2834）

1日平均 92.7回出動  
（15分32秒に1回出動）



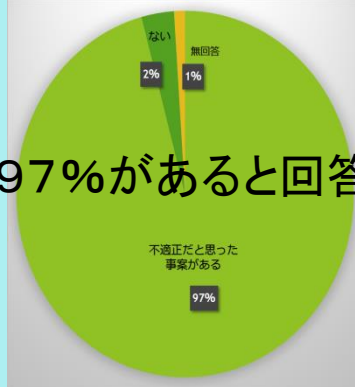
熊本市消防局管内24、5人に1人の割合で利用されました

救急件数の推移



## 熊本市消防局救急隊員へのアンケート結果

今までの救急活動において、「適正ではない」と思われた利用事案はありますか。



97%があると回答！

## 不適正と思われる利用事案のごく一例

- ・入院が決まっている病院への移動（タクシー代わり）
- ・早く診てもらいたいため病院の入り口から要請
- ・病院への救急搬送の途中に、寄り道してほしいと言われた
- ・引っ越してきたばかりで病院を知らない
- ・お酒を飲んでいて車の運転が出来ないので呼んだ
- ・湿布を張ってほしい
- ・ブレーカーを上げてほしい
- ・携帯電話会社に連れて行ってほしい
- ・お腹が空いた
- ・二日酔いで気分が悪い
- ・独りで寂しい
- ・深爪

みんなが安心して暮らせる都市をめざして

「くまもと街なか保健室」とは・・・

- ・ 立地は、アクセスのよい市街地中心部
- ・ 医師1名と看護師が常駐
- ・ 電話での救急相談に24時間体制で対応
- ・ 昼間は窓口で対面での相談が可能
- ・ オープンスペースを併設し、市民が自由に立ち寄ることが可能
- ・ 観光客の急なケガや病気に対しても対応
- ・ 健康や救急活動に関する啓発活動や、講習会等にも利用



## コールセンターとしての役割

あなたのことで困ったときは 24時間・365日対応

### 街なか保健コール

これって救急車呼んだが... いいのかしら...

## 迷ったら、#0119へ!!

医師、看護師がお電話で状況を確認し、適切なアドバイスを行います。対応可能な医療機関の紹介や、緊急性があれば救急車を要請します。また、「街なか保健室」では対面でのご相談も承っております。ぜひお気軽にお越しください!!

あなたの安全・安心を守ります

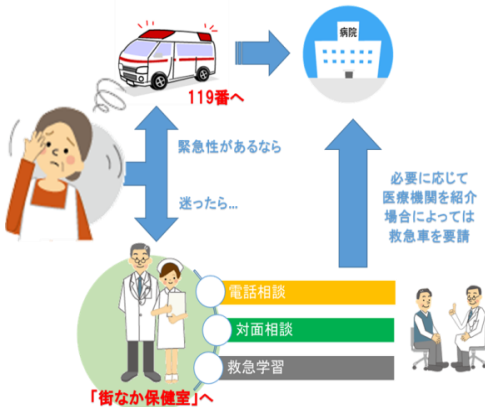
「街なか保健コール」PRチラシ案

## 役割分担

	役割	
利用者	市民	・施設を利用することで、救急車の利用に関する正しい知識が身に付く ・症状が重くなる前に相談することで、安易な救急車利用につながらない
	観光客	・熊本市の医療機関の情報入手 ・万一の怪我・病気の際も安心して旅行ができる都市のイメージを持つ
街なか保健室・コール側	救急相談係員	・街なか保健コール#0119の受付 ・発症場所・看護師への引き継ぎ ・医療機関の案内、受診に関するアドバイス ・救急車の適正利用に関する普及啓発活動（ミニ体験講座開催等）
	看護師	・電話、対面での救急相談への対応 ・電話での必要手当アドバイス ・直後の応急処置
	医師	・看護師では対応困難な相談・処置への対応

## 期待できる効果

- ① 軽症者の119番通報を減らすことにより、適正利用を促すことが出来る。
- ② 上記により、現場到着時間の短縮、ひいては重症者の救命率の向上にもつながる。
- ③ 将来的に救急隊の設備や人員にかかるコストを抑制する。
- ④ 住民からの相談に応じることで、健康づくりに寄与する。
- ⑤ 観光客への対応が可能なことで、安全・安心な都市としても対外的にアピールが出来る。



「街なか保健室」へ